

# 成約撮理解説

## 講義案

《第一章～第三章》

# 《成約摂理解説》

## 目次

### 第一章 四大心情圏、三大王権、皇族圏

#### 第一節 四大心情圏

- I. 子女の愛（第一心情）の教本
- II. 兄弟姉妹の愛（第二心情）の教本
- III. 夫婦の愛（第三心情）の教本
  - ① 夫婦の愛の出発
  - ② 初愛の中心点
  - ③ 人間の完成
  - ④ 代表愛としての夫婦愛
  - ⑤ 結婚の目的
    - (イ) 相互完成
    - (ロ) 神の愛の占領
    - (ハ) 神の完成
  - ⑥ 三つの本宮
    - (イ) 真の愛の本宮
    - (ロ) 真の生命の本宮
    - (ハ) 真の血統の本宮
- IV. 夫婦の愛（第四心情）の教本

#### 第二節 三大王権と皇族圏

- I. 三大王権
- II. 皇族圏

#### 第三節 良心について

- I. 良心とは
- II. 良心の三つの命題
- III. なぜ良心は傷ついているのか
- IV. 良心の解放

### 第二章 墮落論（補足）

#### 第一節 墮落の内的意味

- I. サタン側への血統転換
- II. サタンとは何か
  - ① サタンの正体
  - ② 神は怨讐を抹殺できない
  - ③ どのようにして復帰するのか
  - ④ どの程度まで怨讐を愛さなければならぬのか
- III. 墮落したアダムの立場

#### 第二節 人間墮落の結果

- ① 第一心情：子女の愛の喪失
- ② 第二心情：兄弟姉妹の愛の喪失
- ③ 第三心情：夫婦の愛の喪失
- ④ 第四心情：父母の愛の喪失

### 第三章 復帰摂理

#### 第一節 復帰の公式

- I. 創造本然の秩序と墮落の結果
  - (1) 創造本然の秩序
  - (2) 墮落の結果
- II. 三権復帰
  - (1) 長子権復帰
  - (2) 父母権復帰
  - (3) 王権復帰

#### 第二節 復帰の公式と歴史的展開

- I. リベカの使命
- II. タマルの使命
  - (1) 摂理的背景
  - (2) タマルの物語
  - (3) タマルの信仰
- III. イエス路程におけるマリヤの使命
  - (1) イエスの懐胎
  - (2) イエスの誕生
  - (3) イエスの使命
  - (4) ヨハネの使命
  - (5) イエスの苦難の道

# 《成約摂理観》

成約のみ言      新しい見つめ方

93年～95年：日本女性に語られたみ言が中心  
創造、墮落、復帰原理の内容

## 第一章 四大心情圏、三大王権、皇族圏

完成期7年路程において勝利しなければいけない内容

### 第一節 四大心情圏

**自明の理**：自分と一つになっているものは分からない

(ex)目は顔と一つになっているので見えない

心臓の音も普段は聞こえない

神様も同じ、自分の中にある一つになっているものは神様も感じるができない  
ご自身を100%実体対象化した鏡が必要—— **人間**

### 人間が欲かった

神の理想：アダム、エバ（神の中においては、双子の兄妹）

神の本陽性と本陰性は完全一体化している

・ 子女の愛（第一心情）の教本

アダム・エバの成長

親の愛を受ける

母の懐

環境から美を感知

視覚

花の美しさ

聴覚

鳥のさえずり

嗅覚

花の香り

味覚

果物の味

触覚

動物の柔らかさ

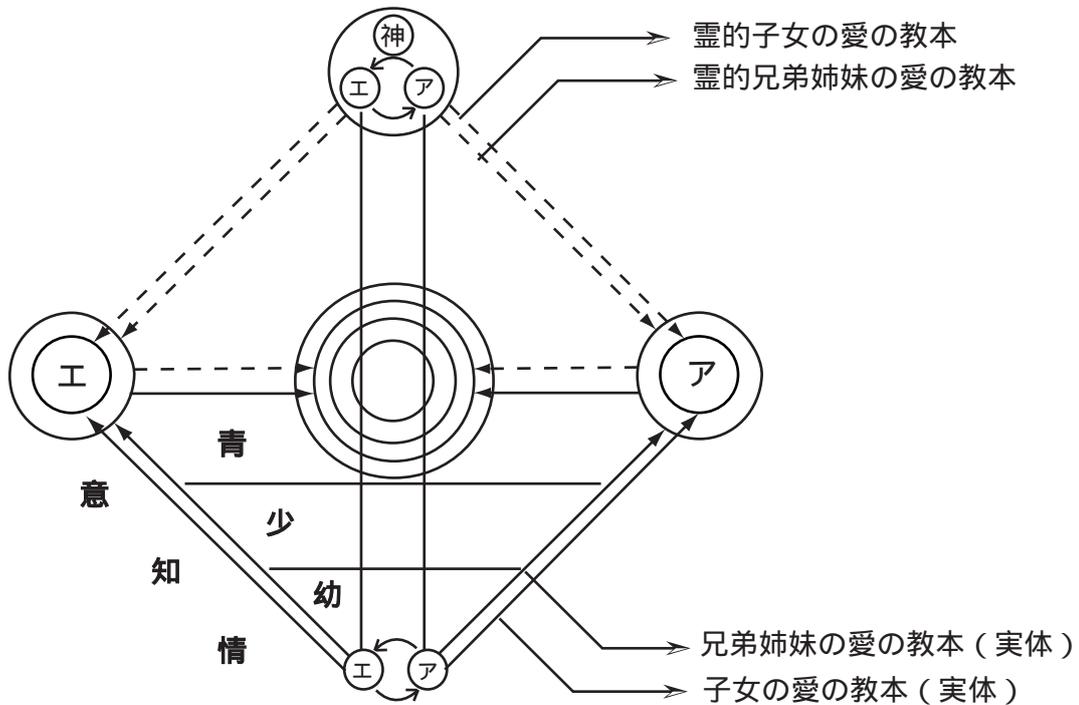
**幼年期**：情緒の発達・・・人間の人格に大きな影響



**少年少女期**：知性の発達・・・自分を理解、環境、社会、人間を理解



**青年期**：意志の発達・・・人生の目標、正しい生き方



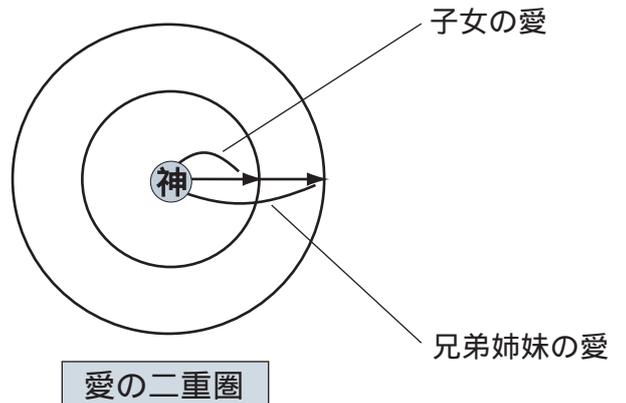
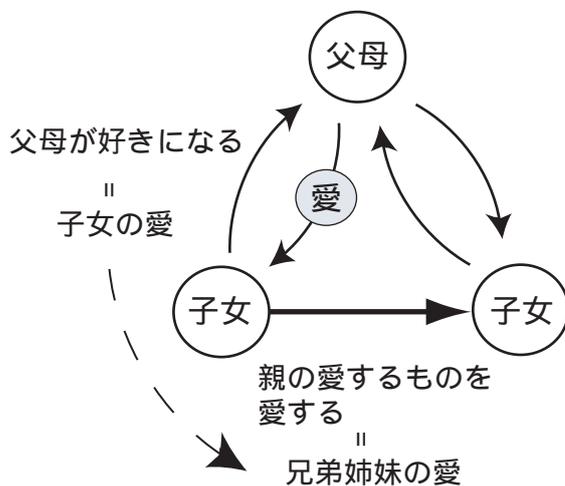
兄弟姉妹の愛 (第二心情) の教本

アダム・エバ      自分達は万物とは異なる  
 二人は互いに本質は同じ、しかし、表現の形が異なる

- アダム** : 宇宙の主管者・・・積極的、行動的  
 野山を駆け回る、木に登り、草木を踏み倒し、海に潜り  
 妹は愛らしい
- エバ** : 美の対象・・・受動的、静的  
 花を摘み、蝶と戯れる、波と遊ぶ  
 兄は頼もしい

兄弟姉妹の愛が、子女の愛よりも大きく成長

愛の包含性



夫婦の愛（第三心情）の教本

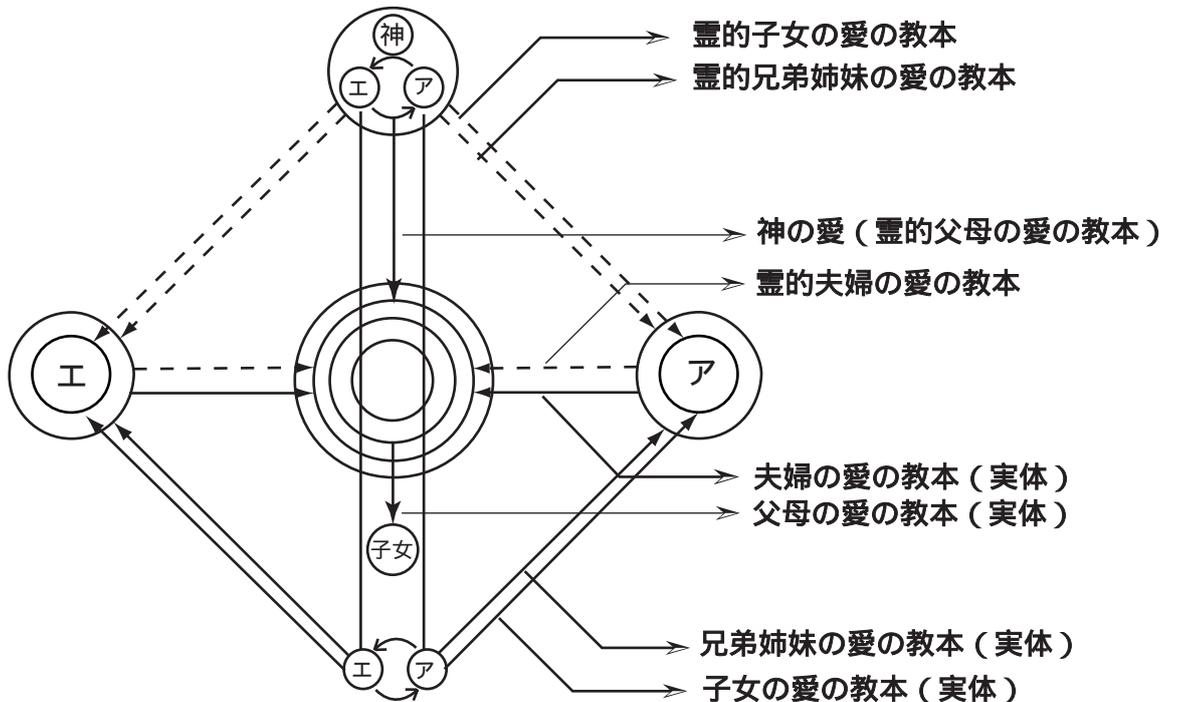
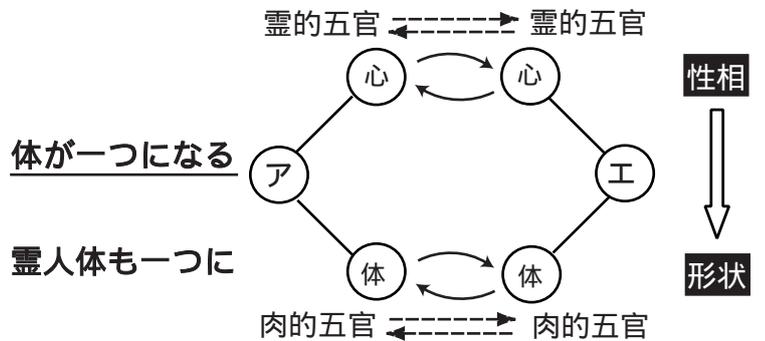
- まず、個人としての人格の完成 = 子女の愛（神、親を愛する）
- 兄弟姉妹の愛（兄弟、人類を愛する）
- 性意識：幼年期・・・象徴的（男の子、女の子という程度）
- 少年期・・・知識として、自然から学ぶ（動物の交尾、花の交配）

**神の性教育** = 「取って食べてはならない」・・・つぼみの時は交配できない  
 サタンの性教育 = 「取って食べなさい」：学校の性教育の間違い  
人格教育は性教育に先立つ

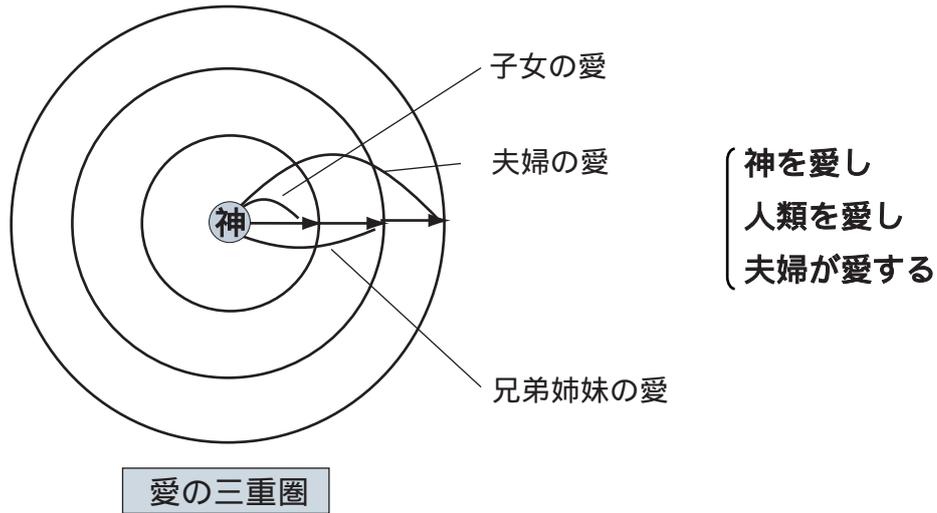
結婚として結実

夫婦の愛の出発

- 性相**：心が一つになり
- 形状**：視覚、聴覚、臭覚  
60兆の細胞が感動  
肉体が一つになるとき、霊人体も一つに
- 初愛の体験**  
幸せ = 「四合わせ」



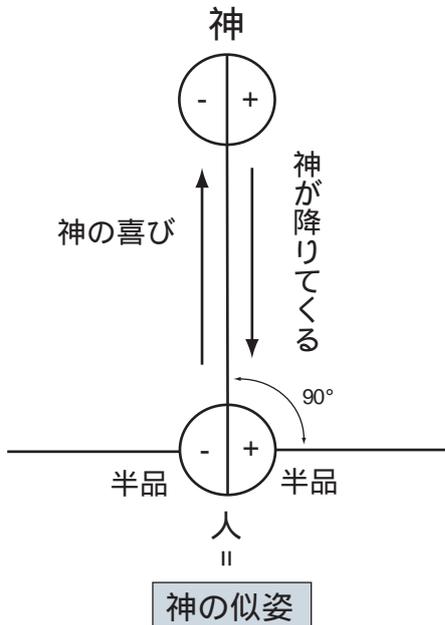
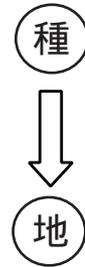
《愛の三重圏》



《男性と女性の関係性》

男性： **主体** . . . 「父なる神」  
 東：愛を与える

女性： **対象** . . . 「母なる大地」  
 西：愛を受ける



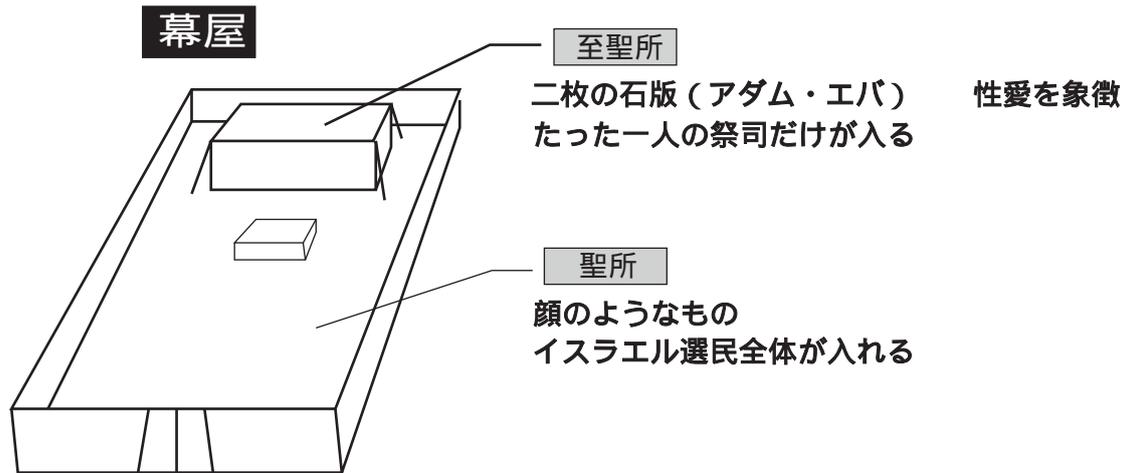
初愛の中心点  
 アダムとエバの一体 神の完全な似姿  
 神の最高の喜び  
 神がそこに降りてくる  
 神がそこにとどまり、神の住所が決定 **神の宮**  
 イエス「私を見た者は、父を見たのである」 . . . **半品**  
「性は聖に通ずる」

神の祝福のない性関係 = 罪 (ex)自分なりの結婚、売春、不倫

**墮落** サタンがその神の住家を奪った

神は追い出された . . . ホームレス  
 神の仮の住まい：幕屋、神殿、教会

## 《至聖所》



幕屋：人間の象徴

至聖所 = 生殖器

たった一人の祭司：その名を夫、妻という

鍵はお互いに預ける 夫は妻の至聖所を、妻は夫の至聖所を所有  
お互いに愛さざるを得ない関係

人間の完成

人間の完成とは愛の完成である

神は永遠、不変、絶対

完全なる神との一体化 人間の愛も変わらない愛となる

神の愛と人間の愛が出会うのは一点でしかない

「愛は直短距離に行く」

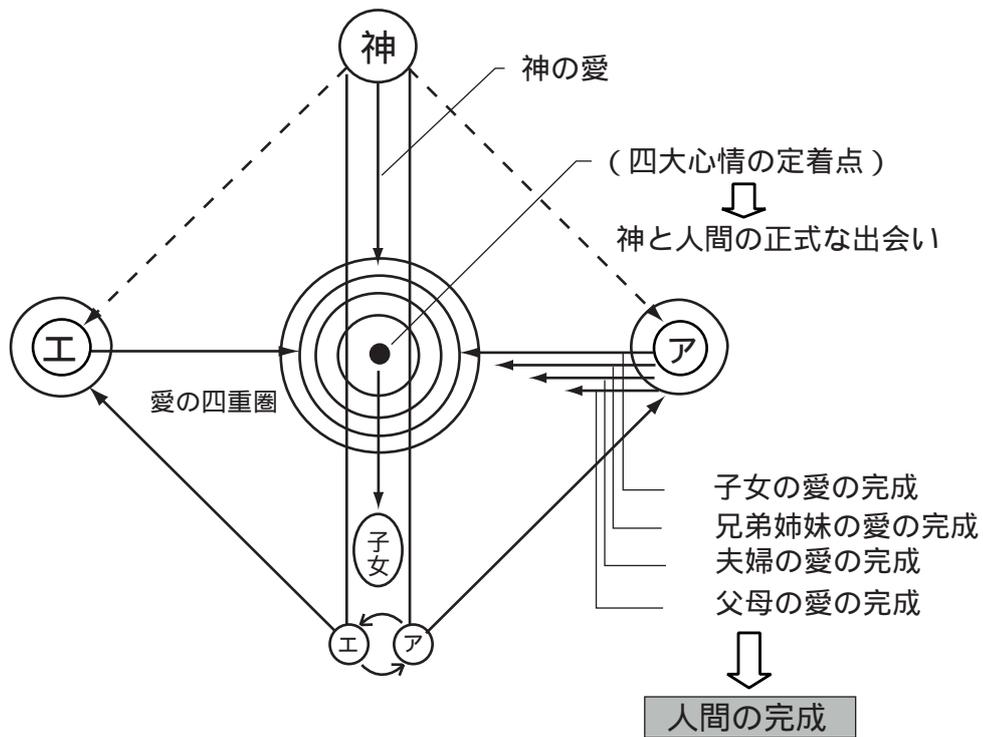
縦的神の愛 と 横的人間の愛 が90度で出会うところ

夫婦の愛がベースになり、神の愛を呼び込み四大心情圏が完成する

- 子女の愛：生命以上に神を愛す
- 兄弟姉妹の愛：生命以上に兄弟姉妹を愛す
- 夫婦の愛：生命以上に夫、妻を愛す
- 父母の愛：生命以上に子女を愛す

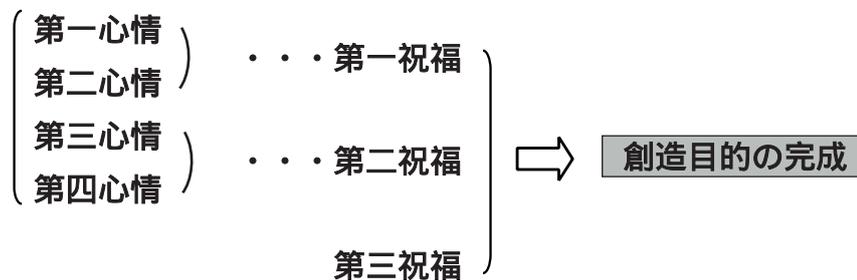
家庭完成 永遠の喜び、幸福の出発

4つの愛からすべての愛が出発



《四大心情圏の定着点》

その一点から神の国が始まる、天国と地獄が分かれる



**第三心情の特異性** : 他の愛には限定性がない  
 第三心情のみ対象はたった一人

真の家庭 = 四大心情圏を完成させた家庭  
 真の家庭運動 (純潔運動) の核心

四大心情圏を完成した実体 ⇨ **真の父母**

## 代表愛としての夫婦愛

1. 家庭の両性を代表：家庭、氏族の両性を代表する夫と妻
2. 人類の両性を代表：30億の男女を代表
3. 被造世界の両性を代表：被造世界の全ての陽陰に通ずる
4. 神様の両性を代表：夫は、妻は神様の半分  
神様を愛し侍るように愛するのが祝福家庭

## 結婚の目的

### (イ) 相互完成

夫は妻を完成させ、妻によって完成してもらう  
妻は夫を完成させ、妻によって完成してもらう  
互いが互いを立派にして自分も立派になる  
互いが、完成の **審判員** である  
お互いに **鏡**

結婚しなければ、四大心情のいずれも完成しない  
第二のメシヤ

### (ロ) 神の愛の占領

神がうれしくて、アダム、エバの後からついてくる  
**愛** から **所有関係** が生まれる

創造において、神が最も精誠を尽くされたところ  
もっとも尊いもの 秘められた場所に隠してある  
手足が一本なくとも、創造理想は完成する。しかし、愛の器官がなければ不可能

万物もその一部になることを願う・・・神と出会える場所

## (ハ) 神の完成

**全知全能性** においては完成した神  
しかし、**愛** においては未完成  
「神も、愛のゆえに成長する神である」  
神も経験を通して成長する

幼児期のアダム・エバ	赤ちゃんの神
青年期のアダム・エバ	青年の神
アダム・エバの結婚	結婚する神

エバは神の娘、妻、母でもありうる

「神を完成させるのは人間である」

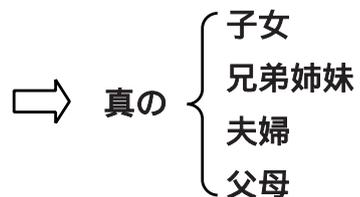
### 三つの本宮

本宮（王宮）＝本山、本神殿

初愛の中心点としての **愛の器官**

### (イ) 真の愛の本宮

絶対変わらない愛の中心、出発点（定着点）  
絶対なる神と触れ合い絶対変わらない愛となる



動物の性と人間の性との違いは：

動物 ⇔ 子孫を残すため・・・一定の時期だけの性

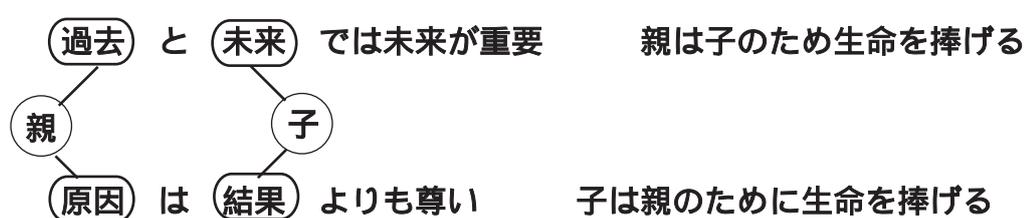
人間 ⇔ 愛の目的のために・・・時間の制約を受けない性

## (ロ) 真の生命の本宮

(愛) から (生命) が生まれる  
愛を生命へとつなげる架け橋が (性) 「父母の愛と生命が交わる」  
真の愛から真の生命が生まれる  
神とのみ相対する真の生命

子女は、父母の愛の秘密の世界に同参・・・これ以上近い関係が無い

真の生命で結ばれた親子関係：生命を与え合う関係



## (ハ) 真の血統の本宮

真の生命と真の生命を結ぶもの = 親子関係  
その生命の繋がりを (血統) という  
神が永遠に共にある真の血統

神の伝統 とは

- ・ 真の愛
- ・ 真の生命
- ・ 真の血統

サタンは愛の本宮を奪うことにより、すべてを偽りにした

《真の良心の本宮》

その一点で 良心も完全に解放され、完成する

絶対の性：性が絶対になるためには絶対愛

97年お父様が、絶対愛を宣言

・ 父母の愛（第四心情）の教本

産苦の体験

神の創造 = **完全投入**

痛みのゆえに、母子の心情が瞬時に通ずる

生涯忘れない感動

第二の創造主

アダム・エバの生んだ子女も、両親と同じ価値

神様よりも多くの子女を持つ・・・ **神に勝る**

天地創造をなした立場

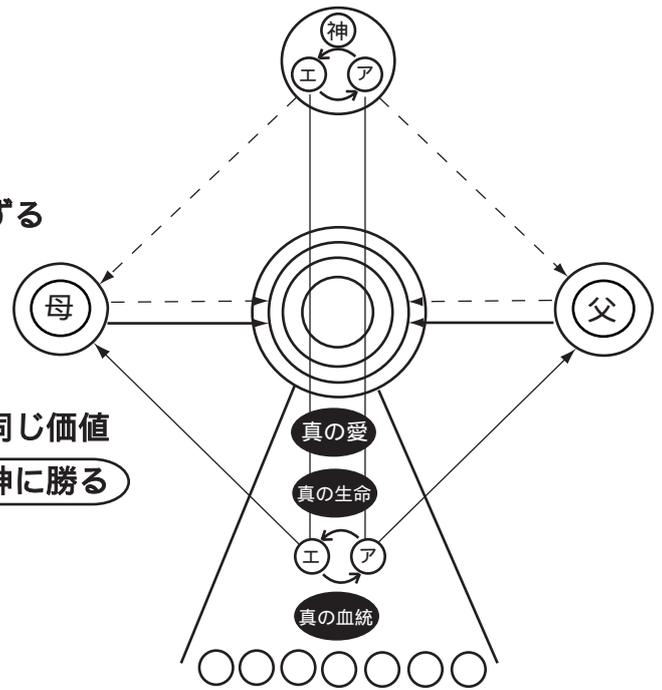
神の愛の体恤

神の愛 = 与えて忘れる

無限の投入      無限倍すばらしい人間

育児の過程      **無私的愛**

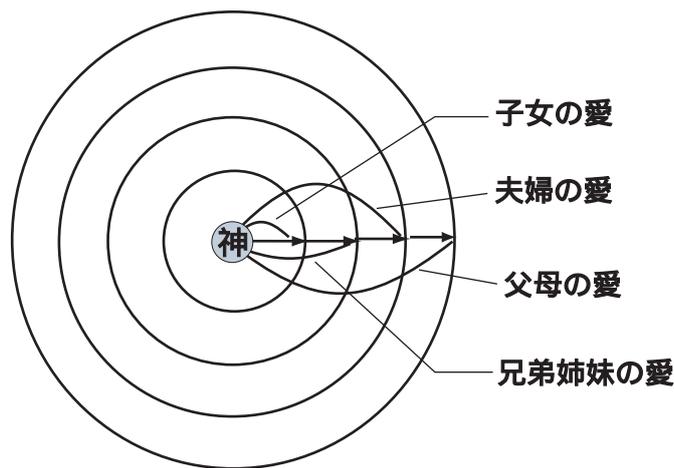
子供の幸せを見て全て忘れる



四大心情圏は愛の教科書

他の愛は、全て四大心情圏のコンビネーション、又は、延長

愛することにつまずいたときはこの四大心情圏に戻る



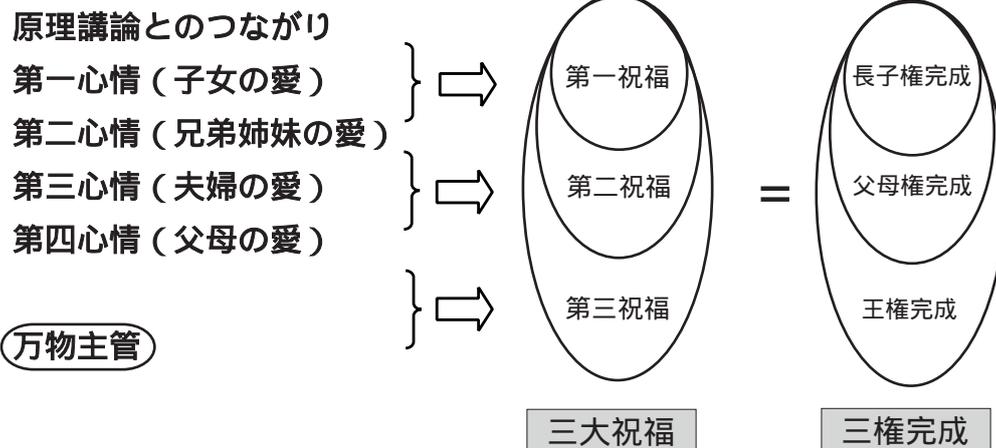
愛の四重圏

四大心情の完成実体 ⇨ **真の父母**

創造の初めから神の構想の中にあった

## 第二節 三大王権と皇族圏

### ・三大王権



### 四大心情をなして家庭完成した土台の上で万物主管

#### 《王権とは》

愛の王者

愛の王権

人間も万物も喜んでついて来る  
三権は本然の世界に初めから存在  
王権の中に全て内含される  
アダムの王権が完成した時、神の王権が完成  
神の王権が完成すれば全て完成  
天地創造の究極目的

氏族メシアの勝利の次に万物主管

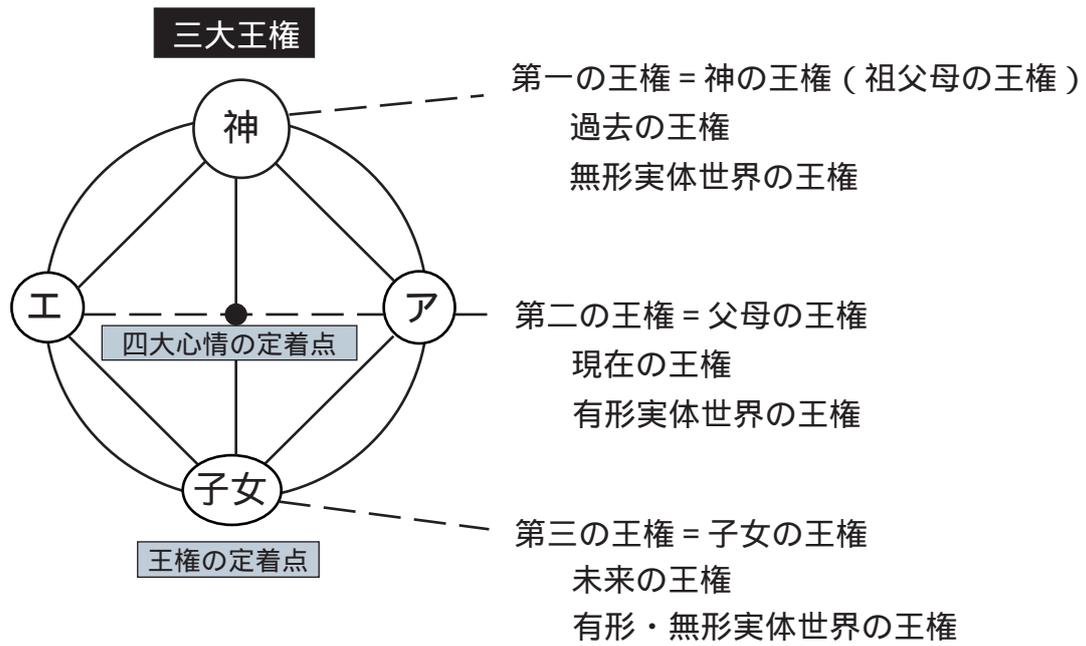
「万物のために生きれば普通の家庭と同じになる」

三大王権が完成すれば「王権が定着」したという

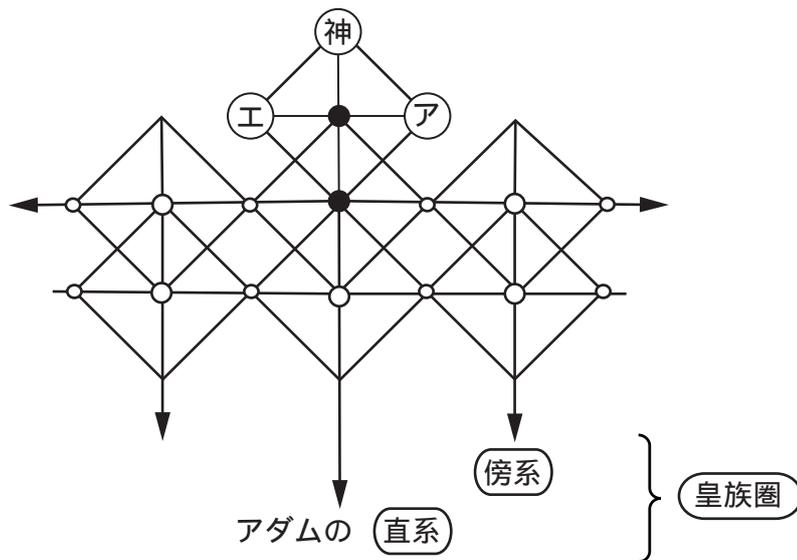
王権の定着点 = 子女

王権の本格的出発点

《三大王権とは》



・ 皇族圏



三大王権を完成した家庭に縦的、横的に家庭がつながる。それを皇族圏という

アダムが完成したなら      アダムの直系が王権相続

イエスが家庭をなしたなら      イエスの直系が王権相続

### 第三節 良心について

#### . 良心とは

(講論) 善の心の性相的部分 (本心)  
          形状的部分 (良心)  
          基準とする真理が狂えば、良心も狂うことがある

ここで扱う良心は、講論でいう本心のようなもの  
神の第三対象として、絶対基準を持つ

{ 誰の中にも良心が存在  
  四六時中私に語りかけてくる  
  良心の声に従えば、誤ることがない

現実：生涯良心に従って生きることの出来た人がいない  
          良心の声を押しつぶし、無視してきた

良心 = 第二の神  
{ 創造の神(第一の神)自体ではない  
  心の一部でありながら、神と絶対矛盾しない  
  神の方向と一致する  
私の中の 小さな神様

私を担当する神様

良心を発見したアボニム

「人生を生きるべき鍵は自分の中にあった。それを知り、うれしくもがっかりした  
(こんな近くに答えがあった)」

時代と環境を越える (普遍的働き) (ex) 砂漠に行く三人の旅人  
善の主体(神)に限りなく近づこうとする性質 (対象性)  
神が良心の根源

100%の良心の満足 = (命を捧げる基準) — 真の愛

## ・良心の三つの命題

### 良心は両親に勝る

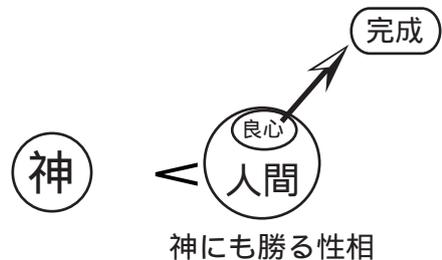
(両親) : 肉心の思いを超えられた親がいない  
いつも子供と一緒にいるのではない

(良心) : 何時でも、何処でも一緒・・・死んだら霊界まで行く

### 両親は先生に勝る

学校の先生も過ちを犯す

良心は (内的先生)



### 良心は神様に勝る

) 神様以上の人間 神の創造の願い

その人間において、最もすばらしい部分  (良心)

) 神から独立した個性真理体のような働き

神は良心に (責任) と (自由) を与えられた・・・直接干渉しない  
私に対する第一責任

) 良心は神よりも先に私のことを知る

## ・なぜ良心は傷ついているのか

(良心) : 真理を基準として善悪判断・・・理性的に働く  
「～すべし」「～すべからず」

(墮落) : 天使の不倫の愛にひかれた・・・サタンは情に働いた  
「～したい」「～したくない」

愛の力 > 原理の力

↓  
(情)

↓  
(理性)

良心の止める力を振り切ってア・ヱは墮落  
罪の熱情がさめたとき、傷だらけの良心が倒れていた  
ア・ヱはその傷を消すことが出来なかった  
それが、血統的に我々に受け継がれている

血を流しながら人間を完成に導こうと身悶えする (良心) がある  
その傷をいかにして癒してあげることが出来るか

## ・良心の解放

### 悔い改め

（ 自分の罪に気づかないほど、罪に犯されている  
祈りを高めてゆかなければわからない  
神の愛の光に照らされなければならない

### 良心 と 肉心 の戦いにおける勝利

#### ）肉心を凌駕、邪心の撲滅

食欲、睡眠欲、性欲の主管

修道の生活：断食、水行

#### ）良心の強化

み言葉

不倫と戦う武器

祈り（報告）

祈らなければ罪が見えない

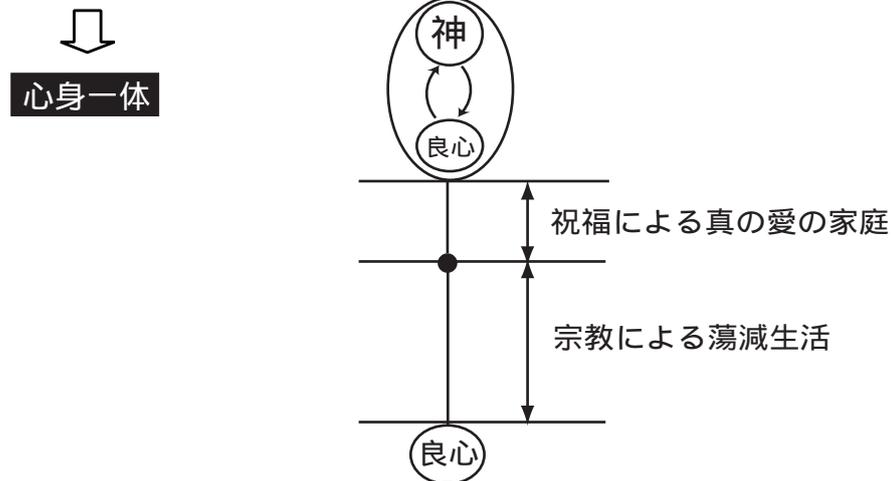
善の実践

勝利感を得る

善を行うことの喜び

### 3~ 5年の闘い・・・良心が肉心を主管する生活の習慣化

「10年続ければ、それが喜びとなる」

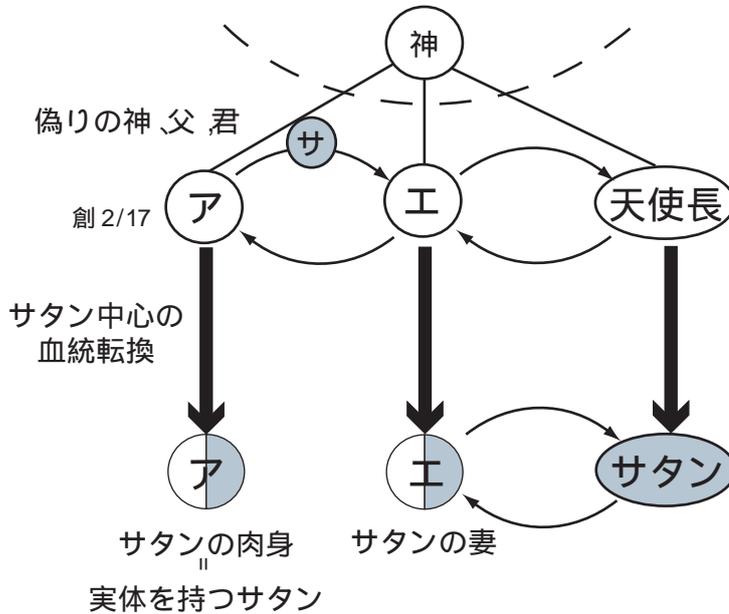


## 第二章 墮落論（補足）

### 第一節 墮落の内的意味

血統という観点から墮落を見つめる

・ サタン側への血統転換



神の息子が死にサタンの息子として生まれ変わった —☞— サタン中心の重生

神の血統圏 から サタンの血統 への 血統転換

「墮落は血統問題である」

救いの中心も血統問題；サタンの血統から神の血統に生まれ直す

—☞— 神中心の 重生

祝福 = 神中心の血統転換 …… 内的摂理の中心行事

《メシアの使命は原罪の清算》

メシアは原罪を清算し、血統転換、祝福するために来た  
 イエスは結婚できなかったのが未完成・・・一人では祝福できない  
 結婚しなければならない イエスは新婦を迎えるべきだった  
 イエスは死ぬために来たのではなかった（3分間の説明で済む）

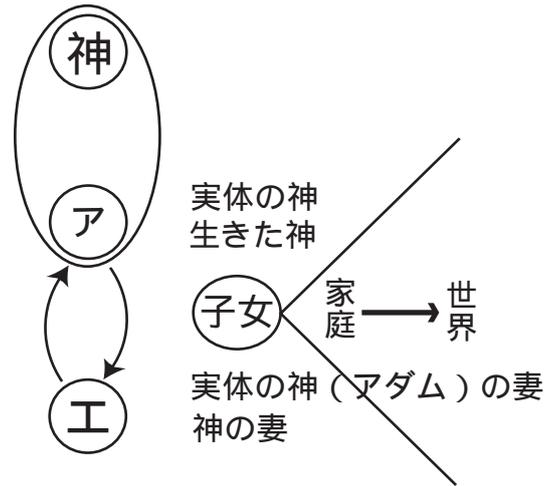
・ サタンとは何か

墮落した天使長ルーシエル

サタンの正体

神：真の父母でありながら  
性相的男性格主体 = 男性としての神

幸せになりたい神



男としての幸せ・・・愛する女を持つこと

**結婚を願う神**

神はアダムを通してエバと結婚したい

神はエバを抱きしめたかった

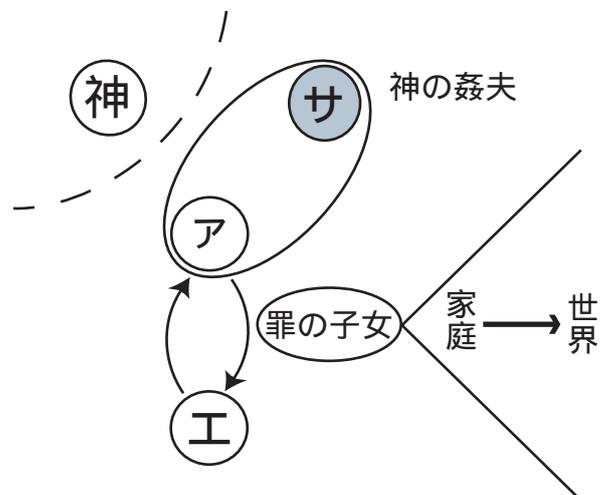
清い子供をたくさん産んで抱きしめ、おんぶし、頬ずりし、肩車に乗せて野原を走り回りながら愛してやりたかった

その子供達の為の万物世界 三大祝福は神ご自身の喜び

神はうちの旦那と全く同じではないか

男の願いは神様の性相の反映

神も家庭が欲しかった



神はその女と結婚できなかつた

なぜ、結婚できなかつたか

侵入してきた別の男に奪われた

天使長ルーシエルは、女（エバ）を奪ったときに **サタン** となった

神の最愛の女を奪った男 = 神の **姦夫**

——— **愛の怨讐**

八つ裂きにして殺しても許しがたい存在

墮落人間でも決闘して奪い返そうとする

4つの怨讐：み言、万物、主権、愛

神は恩讐を抹殺できない

深い怨讐、心の傷をどうすれば癒し解決できるのか 深刻な問題

墮落世界 敵討ち

「赤穂浪士」・・・芝居にはなっても解決にならない

打たれた方は怨みとなって、また霊界から襲う 無限の恨みの循環

神は何故、怨讐を抹殺できないのか

(理由)

・ 天使も人間も (永遠性) を持って創造した

(抹殺) ⇨ 創造原理を自分で覆す — 失敗の神

・ 天使も人間も (真の愛の対象) として創造

(抹殺) ⇨ 消えることのない永遠の (悲しみの神)

・ 恩讐に手を下すことで、恩讐の存在を認める結果

(解決)

本来の位置に、戻してあげる以外にない



神が復帰摂理を始めた根本的理由

どのようにして復帰するか

サタンの言い分を聞く：



「神様、私は悪者になりました。しかし、どうして私が悪者になったか神様はご存知ですね。あなたの愛が欲しくてこうなりました。愛されなかった恨み故です」

サタンが満足するほど (愛を与えてあげる) 他には道がない。

神の立場に立つものが **怨讐を愛さなければならない** 根本原理

マタイ 5/44「汝の敵を愛せ」

イエスは復帰の秘訣を知っていた・・・メシアでなければ言えない内容

どの程度まで恩讐を愛さなければならないのか

サタン：「私がどんなに悪者になったとしても、神様、あなたまで悪者になるわけにはいきませんよね。あなたは絶対不変なる愛の神様ではないですか。対象者が良くなっても悪くなってもその愛の基準に何の変化もあってはならないですね。私がどんな怨讐であったとしても、絶対不変の愛で愛してくれなければあなたを神様として認めません」

そのようなサタンを感動せしめて復帰するにはそのような愛でもって

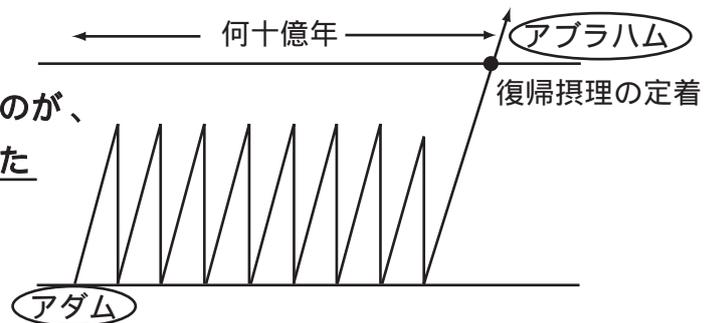
愛して復帰するしか道がない

怨讐を最高の愛で愛することに神自身が挑戦していかれた。神は自らを犠牲にし、愛するものを犠牲にしながら、ただ怨讐のために尽くし尽くしぬいていかれた。そして、その怨讐がこれ以上ない幸せになったその姿を見て、それが自身にとってもこれ以上の喜びはないという基準に達するまで、サタンは神に屈服することが無かった。

神様は何百回、何千回と挑戦した

愛するものがサタンの故に血を流し死んでゆくその叫びを聞きながら、「私が怨讐を愛せなかったから、こうなったんだ」と自らを鞭打ちながら自分の中の愛をさらに鼓舞していった神様であった

その復帰摂理がようやく定着したのが、  
4000年前のアブラハムの時だった



「先生も初めは牧師の言うように、栄光の神だと思っていました。しかし、実際の神様に出会って見ると、これほどまでにかわいそうで悲惨な神様であることを知りました。そして、この孤独な神を抱きかかえて痛哭しました」

「何日も何週間も涙を流しつつ、このかわいそうな神様を解放しよう、神様を幸せな神にしよう、それが先生の人生の目標になりました」

「皆様はつらくなれば去ることができる。しかし、先生はどんなにつらくても神様の悲しみを知ったので、神様を捨てることができない。神様を誰が愛し面倒見なのか」

「私は、ただ悲しい神様の友達になりたかったのです」

「先生は80歳になっても先頭を切るだろう」

「たった一人の罪人でも霊界でもだえていれば神は幸せでない」

「100年に1度は、私以上に神を愛する人をこの地上に送って下さい」と祈っている

・ 墮落したアダムの立場

サタンの息子の立場

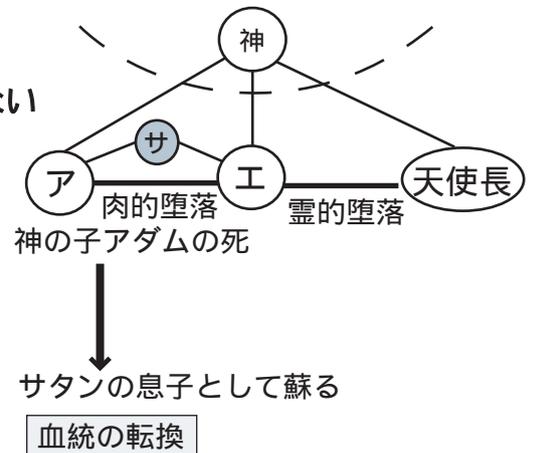
《愛の減少感》

ルーシエルは、神が **有形世界** を作り始めたとき、それが誰のためのものか分からなかった  
 アダムを作ったときに分かった、アダムは **肉身** をもって有形世界を主管できる  
 しかも **エバ** を通して子孫も作る アダムはこの世界を永遠に主管する

嫉妬の原因；アダムは主管権（有形世界）と相対を持っている。  
 天使長は、万物もなく相対もない この祝福の違いが寂しかった

墮落によって **エバ** を主管した  
 エバを通じて **有形世界** を主管できる  
 しかし、エバには **種** がなく、天使長も種がない  
 エバが死ねば天使長のものはなくなる

エバを通して **アダム** をも墮落させた  
 —☞ サタンの主管を **永続化**  
 実は完成した後、天使長も女性の天使を  
 与えられ相対圏をなすはずであった

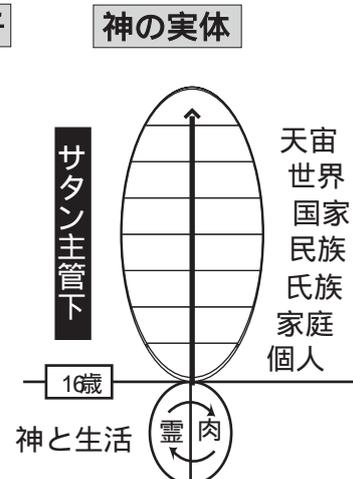


墮落したアダム：**サタンの息子** **肉身を持ったサタン**  
 復帰摂理上は天使長の立場：御旨に  
 { マイナスなら悪の天使長  
 プラスなら善の天使長

もしアダムが墮落しなかったならば **神の息子**  
 罪なきアダムの骨肉にある種は神の種  
 神の妻の中に産まれる子供は、神の子  
 カインは神の息子になるはずだった。

アダムは **16歳** で墮落した  
 神と共に生活した期間  
 本性の中に理想世界を求める望郷の念  
 —☞ ユートピアムーブメント

**清さ** も残っている



## 第二節 人間墮落の結果

四大心情圏の喪失 という観点から見た墮落の結果

四大心情 + 第三祝福 創造目的の完成

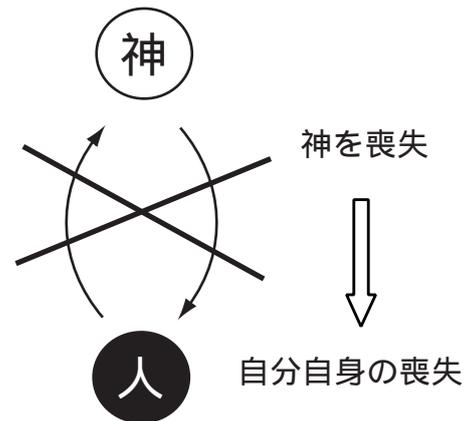
四大心情の喪失 全てを失う

第一心情；子女の愛の喪失

墮落 = 神と人間の関係の断絶

( ) 神の喪失

神と自由に交流できない  
神の温もり、愛が分からない  
神が見えない (盲目)  
神の声が聞けない (耳しい)  
神の言葉を語れない (啞)



神を喪失したことを正当化する理論

(ex) 理神論

神の死の哲学、

無神論、進化論

( ) 自己喪失

人間の本質：(神の子)

「神的価値」を持つ人間  
人間の命の尊さ

親を失った — 親が分からない私生児



人生の根本問題に直面するようになった

人生の目的、人間の価値がわからない

享樂的な生き方 自己破滅

絶望と自殺

(ex) ベストセラー「20歳の原点」高野悦子

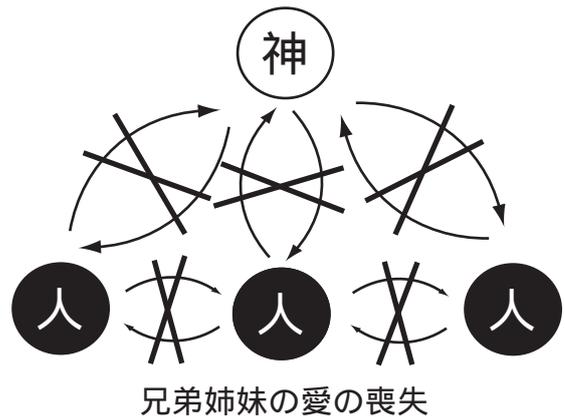
神と出会わなければ人生は根本的に変わらない

第二心情：兄弟姉妹の愛の喪失

共通の親 兄弟姉妹の関係

墮落：共通の親を失った

他人 という概念  
↓  
戦争 と 闘争 の歴史  
(ex) 部族、民族、国家、宗教



第三心情：夫婦の愛の喪失

第三心情の特異性・・・限定性を持った愛 — 幸福と破滅の分かれ道

( ) 不倫

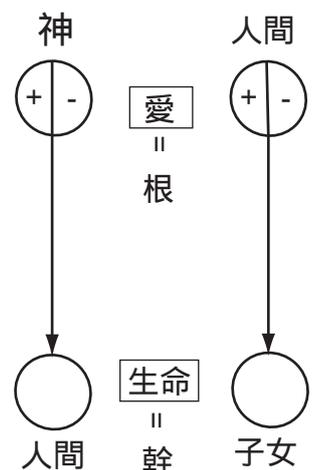
家庭破壊の根本原因

( ) 売春

金銭 は万物の象徴 万物を売買するのは罪ではない  
人間は万物ではない 奴隷制度は大きな罪  
愛は生命の根っこ 愛を売買するのはより大きな罪

( ) ポルノ

性を公衆の面前にさらす罪  
愛と生命は根と実の関係 根は隠れている  
宇宙の生命の背後に隠された 神の二性性相  
子女の生命の背後に隠れた 夫婦の愛  
夫婦愛は外に出すものではない  
尊いものは、大切に保管・・・人間の 尊厳性 の中心



( ) 同性愛

創造目的の破壊

エイズ蔓延の引き金 — 人類滅亡の危機

( ) 近親相姦

人間の精神性の根本的破壊

第四心情：父母の愛の喪失

未成熟な親  { 未婚の母  
幼児虐待、殺害  
奴隷として売買

解決の道

四大心情圏の復帰



神から以外に解決は来ない

罪無きメシア迎える  神に帰る

真の家庭運動の推進

### 第三章 復帰摂理

#### 第一節 復帰の公式

復帰摂理は **再創造摂理**

創造原理、復帰原理の公式に従う

《講論の観点》

罪人は自分では罪を清算できない



メシヤを迎えなければならない

蕩滅条件（形を変えた責任分担）が必要

**メシヤを迎える基台**



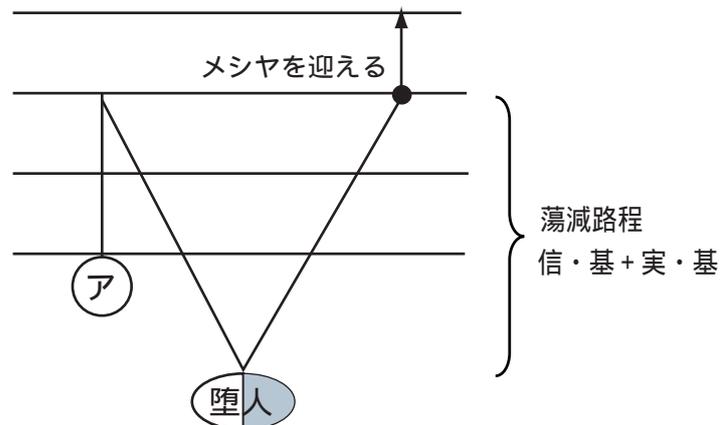
メシヤを迎え **原罪清算**

メシヤと共に **完成期** を歩む

**神の直接主管圏**

メシヤのための基台摂理（信基 + 実基）・・・ **主役は男性**

表舞台から見た摂理



成約摂理の観点（ **三権復帰**、 **縦的八段階復帰** ）・・・ **主役は女性**

舞台裏から見た摂理

(ex) 駿河湾から見た富士と裏富士の関係・・・同じものであるが、見え方が違う

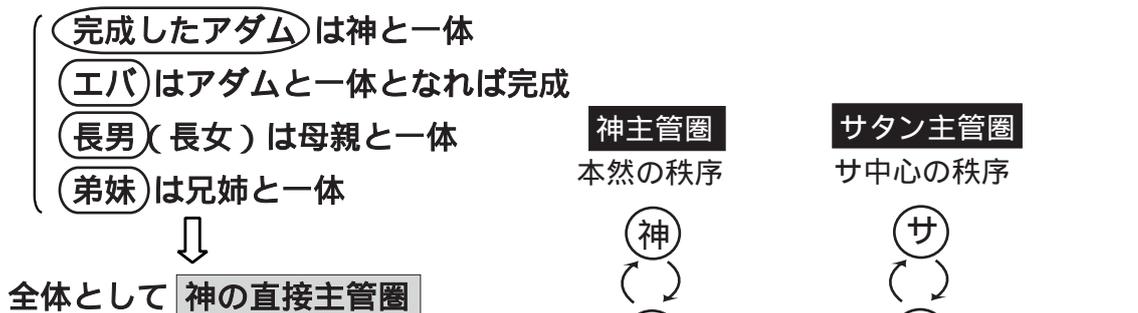
**女性の信仰**

**男性の勝利**

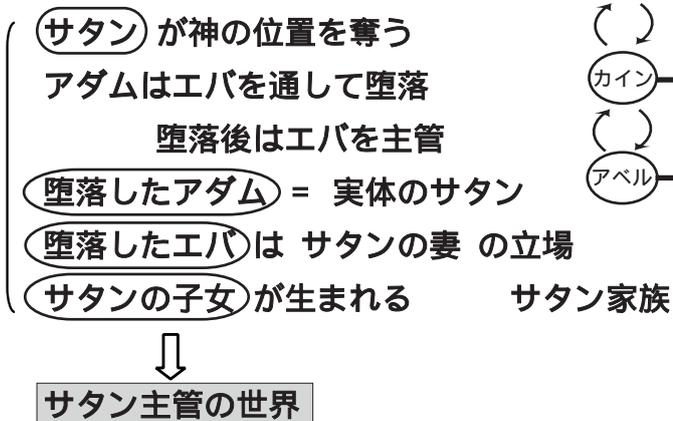
女性の使命と母の国日本

・創造本然の秩序と墮落の結果

(1) 創造本然の秩序



(2) 墮落の結果



神の家族もサタンの家族も形は同じ      **原理型の非原理世界**  
 それなりの秩序、倫理道徳、人情、やさしさ  
 (ex) やくざの世界  
 しかし、神は自由に住めない

↓

その本質を見失いやすい

神に最も近く、しかも問題が最も多い教会が UC  
 神に最も近い方は (メシヤ)  
 メシヤに最も近い教会は (UC)  
 神の国の玄関が UC である  
 (これが分からなくて信仰を見失なう)

サタンにとっても墮落世界の主管は難しい

《理由》

墮落人間の中にも(サタンへの反逆者)が潜んでいる

良心・・・サタンに絶対に屈服しない

全てが怨讐関係

(アダム)と(天使)：天使に主管権を奪われた vs 愛の減少感

(エバ)と(アダム)：エバによって墮落させられた vs アダムは守

ってくれなかった

(カイン)と(エバ)：サタンの長子になってしまった vs 真の親になれない

(カイン)と(アベル)：善と悪の宿命的対立

この世界を主管しつづけたサタンの実力・・・イエスも殺された  
そのサタンを真の愛で感動させ屈服した —👉 アボニムの偉大さ

・三権復帰

(1) 長子権復帰

サタン圏で最も出来の悪い存在・・・(アベル)

サタンから最も遠い

叱られて裏口で泣きながら、親父の「帰って来い」というのを待っている



(神)：失った女と子女を探す旅にでる

ある家の窓越しに神の見たもの

暖炉の前で夫に酒を注いでいる女・・・夢にまで見た(最愛の妻)

夫・・・神の心情を引き裂き、妻と子供を奪っていった(恩讐サタン)



飛び込んでゆきたい神の心情      しかし、直接対決できない

裏口に回る      家の方を向いて泣いているアベルがいる

「アベルのしっぽを握って神は摂理」

神はアベルの肩をたたく      振り返って怪訝な顔のアベル

「私が本当のお父さんだよ」      神の目から涙があふれる

アベルの本心に、16歳まで神と過ごした記憶がよみがえる

「あっ、お父さんだ」

アベルは神と共に帰る

心情因縁の復帰



信仰基台



神のアベルに対する願い

「君のいたあの家に、兄さんの(カイン)がいたのを覚えているかい」

「あの兄さんを連れて帰ってくれないか」

アベルは勇んで出かける



サタンは喜んでアベルを迎えるか

三権は芋づる式につながっている

カイン(長子権)を失えば、全てを失う

命懸けで守ろうとする

カインを通して反対し、

最後には殺そうとする

(ex) パロ、ヘロデ、金日成



カインにより三度殺されるくらいの体験

カインの中に「やりすぎたかな」との反省の思い

アベルと共に神の元に帰る



実体基台

神主管圏

本然の秩序



サタン主管圏

サ中心の秩序



サタンの実体

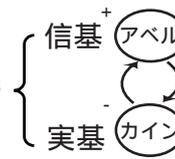


サタンの妻



サタンの長子

長子権復帰



交差転換

### アベルの正道 (長子権復帰の秘訣)

「先生の生涯はサタン屈服の道でした。サタンを屈服するためにはサタンに勝らなければなりません。勝するためにはサタンの持たないものを持ち、サタンが出来ないことをしなければなりません」  
サタンの持たないものとは真の愛であり、サタンの出来ないこととは自己否定と自己犠牲です。サタンがサタンである限り人の為に生きることは出来ません。だからもし私たちが自らを否定し、犠牲にして怨讐のために尽くすならば、サタンは感動して屈服せざるを得ないのです。先生はこの道を発見し、生涯これを実践してきました。そして、今日の勝利をあらしめたのです」

### 《ヤコブの勝利》

カインの背後のサタンを感動させる

カインの良心が目覚め従ってくる

金日成を屈服させたアボニム

(2) 父母権復帰

神を中心にアベルとカインが一体化

神の二人に対する願い

「君たちのいたあの家には君たちのお母さんがいるだろう

一緒に行ってお母さんを連れて帰ってきてくれないか」

**エバ復帰** = 父母権復帰の始まり



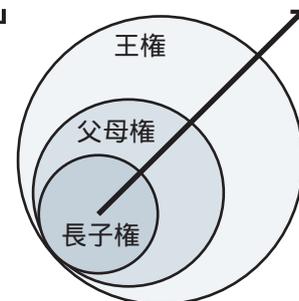
サタンは(愛の器官)を通して女を支配してきた

墮落世界の夫婦関係

女性の復帰

サタンの秘密を知り、

その関係を断ち切る



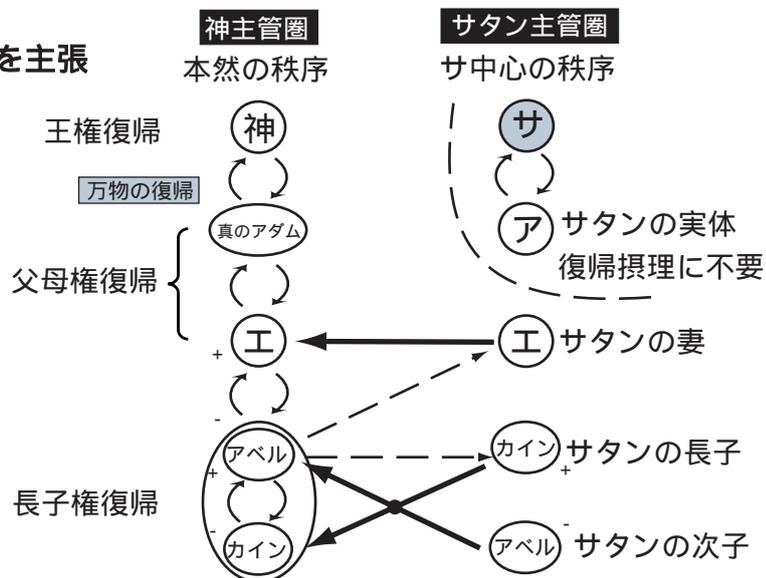
**出家、聖別生活**

高等宗教は性関係を絶つことを主張

一つの宗教は700年

個人は70年の聖別条件

成約時代は7年の聖別生活



**エバの失敗** とは :

「エバの失敗は神とアダム、すなわち、父と夫、または父と長子を裏切って天使長と性的関係を結び、サタンとなった天使長の種を受けてサタンの子女を生み彼らを連れて地獄に行き、地上地獄と天上地獄を作り出したことだった」

**復帰されたエバの使命** :

「従って、復帰されたエバの使命は、サタン側の父と夫、または父と長子を裏切ってでもサタンとの関係を断絶し、その子女を一体化させ、彼らを抱いて真のアダムと一つとなり重生して神に帰ることである」

女の道は何故険しい

復歸されたエバ：リベカ、タマル、マリア、



その女を迎える神の心情

うれしいけれどもサタンの臭いが染み付いている

「腐った豚より悪いよ」

それを清める

（聖酒式）（三日行事）

サタンの臭いのついた布団を清める

（聖塩）

人類歴史上初めて勝利された女性：（真の母）

1992年4月10日：世界平和女性連合創立大会

女性解放宣言

御旨に参加する女性は復歸されたエバ

母の国、日本の行くべき道

神が（真のアダム）を送る

全ての女性を代表して真のアダムを迎える = （真のお母様）

本然の秩序が回復

父母権復歸の完成

残された男性の立場

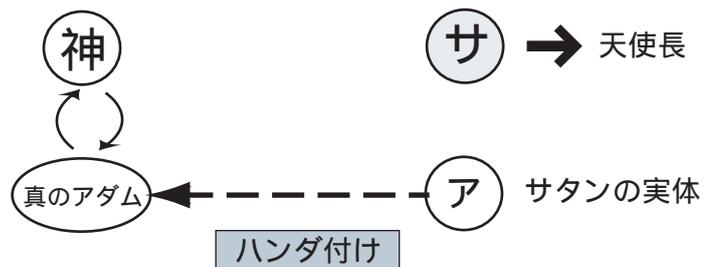
復歸摂理上は不必要な立場（粗大ゴミ）

30億マイナス1の女性が余ってしまう

不要となった男性をメシヤにあずけて真の男性として再創造してもらう



ハンダ付けの理論



16歳までの墮落前のアダムにお父様の勝利圏を接ぎ木する

清いアダムとなり清いエバとなり結婚することができる

- 復歸された男性 = メシヤの弟
- 復歸されたエバ = メシヤの新婦



神の血統を持った子女を生む

(3) 王権復歸

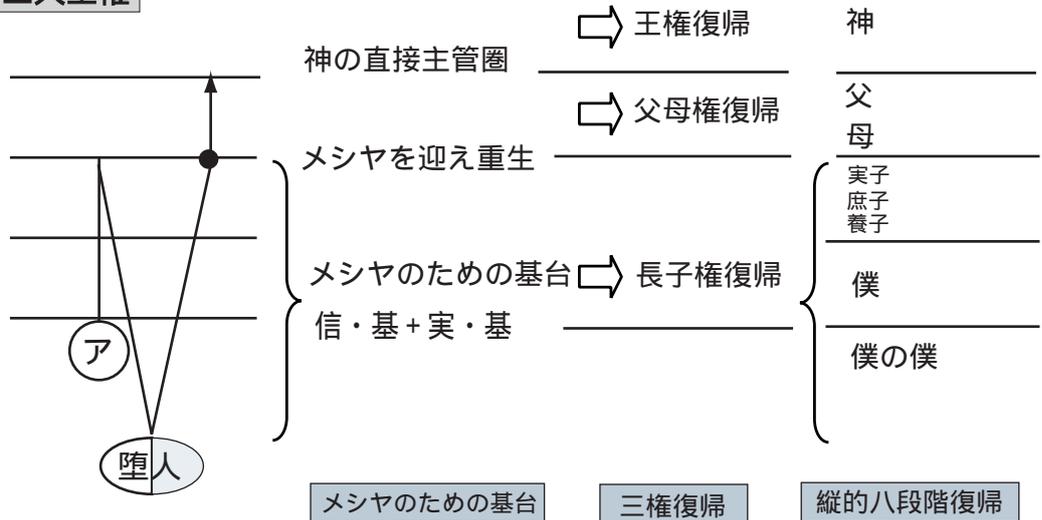
万物の復歸を果たす

三大祝福完成

↓  
神様の王権を復歸

||

三大王権



三権復歸を心情の関係から見て — 手

縦的八段階

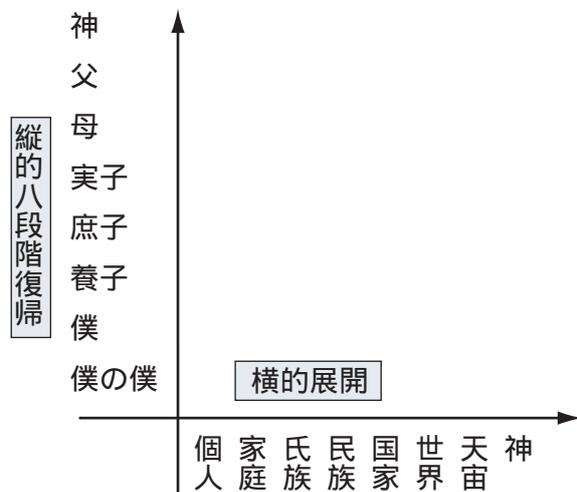
{	僕の僕、僕、養子、庶子、実子	長子権
	母、父	父母権
	神様	王権

それを横的に展開 — 手

横的八段階

個人、家庭、氏族、民族、国家、世界、天宙、神

↓  
地上、天上天国の完成



## 第二節 復歸の公式の歴史的展開

### メシアを生み出す究極的鍵は女性が握る

#### ・リベカの使命

イサクの妻

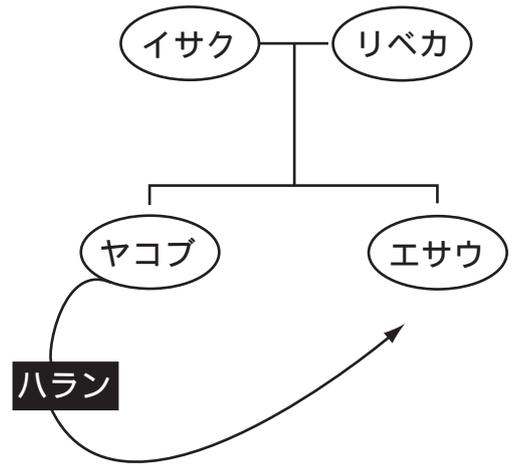
知恵があり、美しい

しかし、子宝に恵まれない

復歸摂理上の女性の宿命

祈り求め、双子を授かる

腹中で子供が争う 神の啓示 (創 25:23)



(ヤコブ)の長子権復歸のたたかい

パンとレンズ豆 (長子の嗣業)

(イサクの祝福)を奪う

(エサウ)の怒り ハランに逃れる

リベカはそこまでは協助

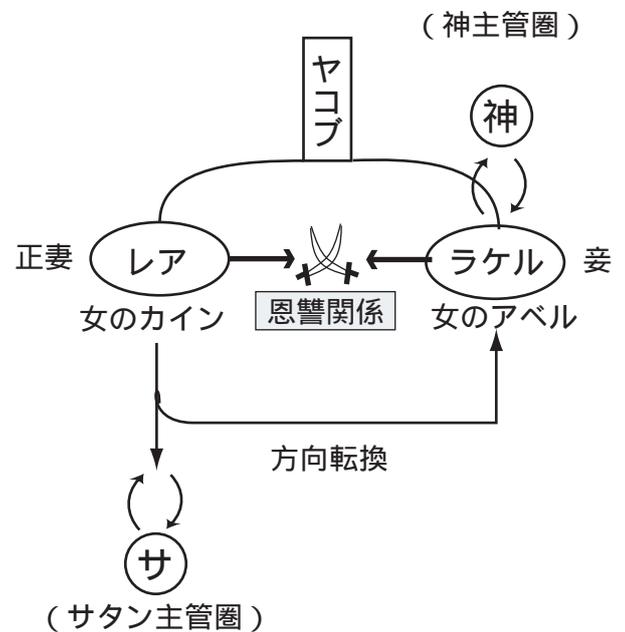
(ラケル)との約婚

初夜の出来事

(レア)が正妻の位置を奪う

ラケルはころげ回りながら泣き叫んだ

悪女のレアは退こうとせず



(女)の(カイン)、(アベル)の闘い

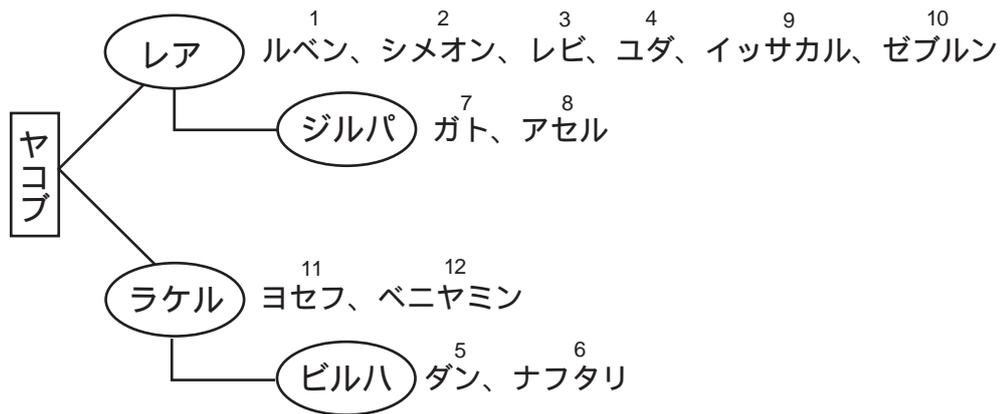
カイン側の妻レアからどんどん子女が生まれる

天の側の妻ラケルには子供が生まれぬ

40歳を超えて、ヨセフとベニヤミン

二人の女の一体化がなされぬままラケルは他界

**歴史の禍根** : 兄たちがヨセフを殺そうとした  
十人の族長とヨシュア、カレブ  
北イスラエル (10)と南ユダ (2)



### 背後の摂理的事情：神とサタンの駆け引き

サタン：「神様、あなたはラケルを立てて祝福し、その血統からメシヤを送ろうとしていらっしゃる。しかし、ラケルが祝福を受けるには長女権を復帰しなければなりません。そのためには、恩讐を愛することにおいて勝利しなければなりません。そうしなければ、私がアベルとして認めません。ですから、恩讐を置いて差し上げましょう」

**レアの使命**：姉として妹をいたわり、正妻の位置を譲り、ヤコブとラケルの愛するその姿を賛美する心情をもつべき

**ラケルの使命**：恩讐を愛で屈服させるか、母に訴えてでも、ヤコブを守ってもらうべき。「やさしいだけでは、御旨をなすことは出来ない」

**リベカの使命**：ラバンの妻と一体となって、ラバンに訴え、ヤコブを守るべき

**ラバンの妻の使命**：ラバンを制し、レアを分別させる

結果として、二人の女性の一体化は果たせぬまま終わる

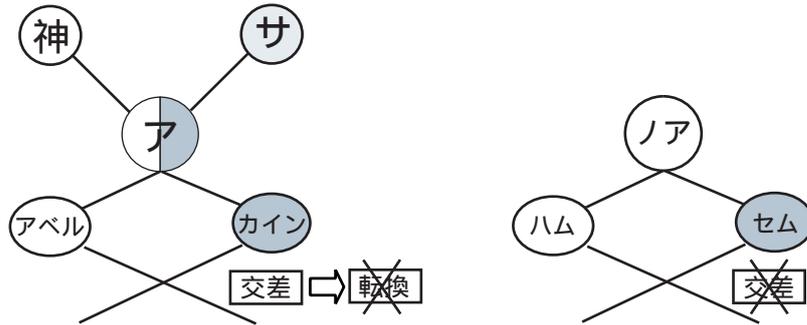
**リベカ**は祈りが足りなかった (ex)イサクが妻の為に祈る 妊娠

〔 啓示を夫に伝えなかった  
子供たちの教育が出来なかった

**ヤコブ**も二人の女の間で努力をしたが、どうすることも出来なかった

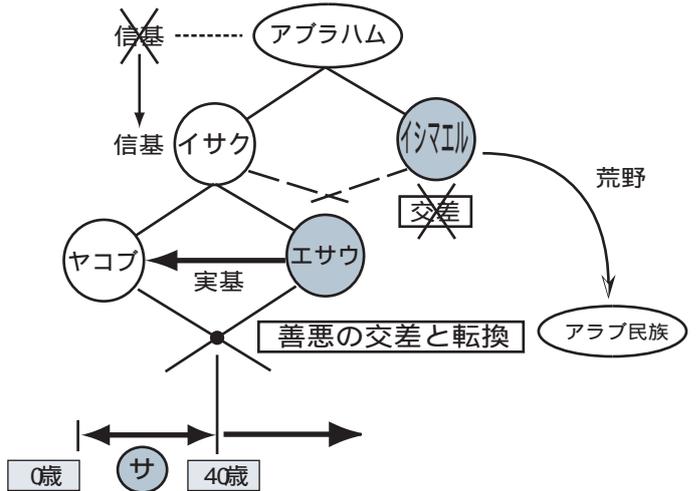
・タマルの使命

(1) 摂理的背景



アブラハムが(象徴献祭)に失敗していなければ

**アブラハムの失敗**  
**イシマエル**：摂理からはずれる寂しい立場      アラブの先祖  
 中東問題、イスラエル・アラブ紛争の原因



**メシアのための基台復帰**

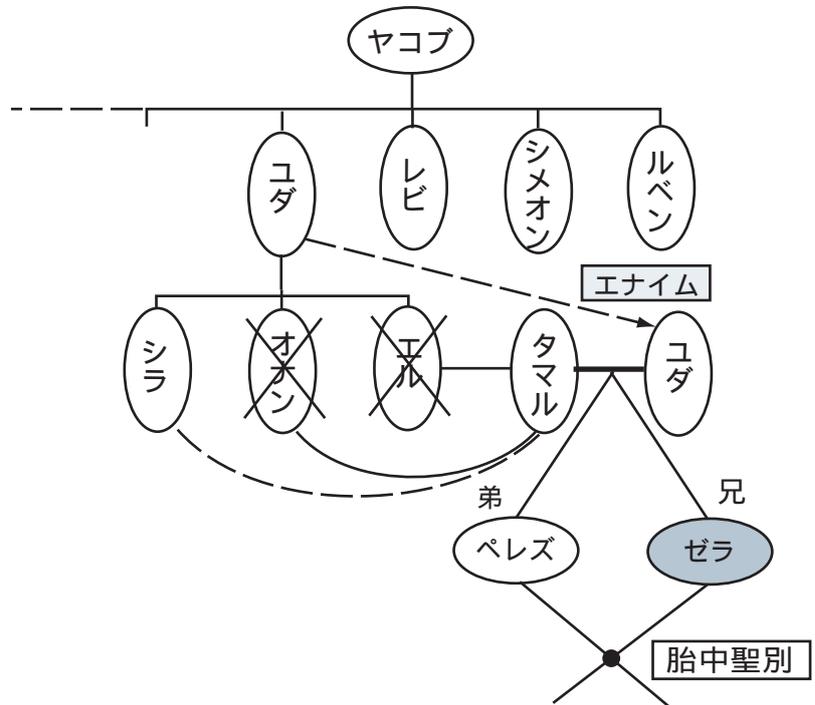
エサウはヤコブに屈服  
 ヤコブ、エサウは40歳  
 40歳以後は清まった、それ以前はまだ  
 まだメシアを迎えられない

0歳から40歳までの期間を清めなければならない — 胎中分別  
 子宮を持っている人間しかできない      女である  
 選ばれた女性、(タマル)

(2) タマルの物語

アブラハム      イサク      ヤコブ

ユダはヤコブの四男



ユダの3人の息子

エル : タマルの夫      死

オナン : 兄のために子を産むのを拒む・・・地に漏らした  
オナンはすぐ死んでしまう

シラ : 本来タマルを迎えるべき立場



ユダはそれを救さなかった

ユダにとってタマルは恐ろしい女・・・ **男殺しの女**

実家に返す



ユダの妻の死

ユダが一人で旅に出るという知らせ

天啓のようなひらめき

タマルは寡婦の衣を脱ぎ捨てて遊女を装う

通り道で待ち受けた      ユダとタマルの関係が結ばれる

ユダは支払いを約して      印      紐      杖を渡す

後日、使いを送ったが遊女はいなかった

タマル妊娠の噂

ユダ「この女を引き出して焼いてしまえ」

タマル「私はこれを持っていた人によって身ごもりました」

使いは印の品を持って帰る

ユダ・・・「彼女（タマル）は、私よりも正しい」



タマルは双子を出産

〔ゼラ（長男、カイン、悪を象徴）  
ペレッツ（次男、アベル、善を象徴）

ペレッツがゼラを押しつけ先に生まれる

腹中転換（実体基台） 罪無きメシアの生まれる条件



もしタマルと同じ信仰と心情の基準の女が現れれば

タマルの勝利基準を相続可能

胎中聖別なしに無原罪の子女を生むことが出来る

### （3）タマルの信仰

タマルのなした行為：

2人の夫を死なせ

夫を裏切り、義父を騙して関係を結んで

双子を生んだ

もしばれれば、火あぶりの刑



タマルはそれを百も承知でやった・・・死を覚悟して

生死、恥、倫理、道德観念、すべてを捨てて

タマルの動機：

〔仮に〕 欲望を満たすためなら 道端のあとくされの無い男を選んだはず  
二人はねんごろな関係だった ユダの前でベールを使う必要なし

〔真の動機〕：アブラハム、イサク、ヤコブの血統を残したかった

〔オナンの急死・・・その真相を知るのはタマルのみ  
ユダの血統を残すのが神の願いであると直感  
神を喜ばせたい、神の願いをなすことさえできれば自分はどんなになってもか  
まわないと思えた女

無私の信仰・・・自分という存在意識がない

タマル勝利の中心ポイント  
血統だけを残すなら、シラが別の女と結婚すればできる  
しかし、胎中分別という奇跡は起きなかつたろう

タマルの(絶対信仰) 神が働いてもサタンの讒訴がない

絶対信仰なしに、胎中分別はなく、メシア降臨もなかつた  
律法も無い旧約以前の時代に最高の信仰の基準を残した

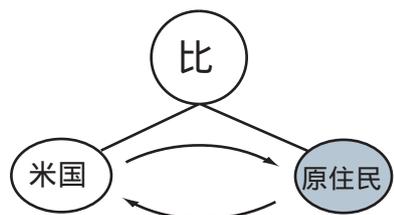
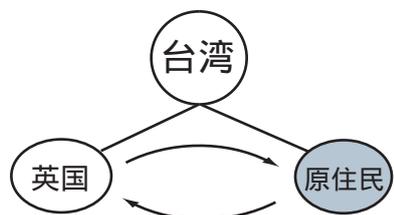
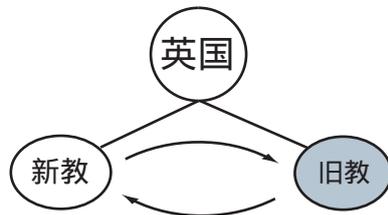
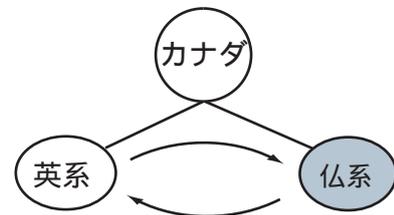
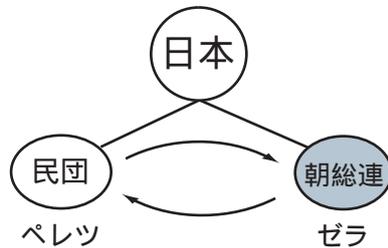
(祝福前の女性)の備えるべき心情基準

母国、(日本)の立てるべき信仰 「日本はタマルの国である」

母の国の勝利 = 胎中の二人の子女を一体化させる

日本：民団(アベル)と朝総連(カイン)  
柳寛順大会の成功とアボニムの入国  
「外からでも持ってきてタマルの信仰基準を立てなければならない」

(ex) 英国、カナダ、台湾、フィリピン等



・イエス路程におけるマリヤの使命

イエスの父は **ザカリヤ**

1993年まではこのことを言うことはできなかった

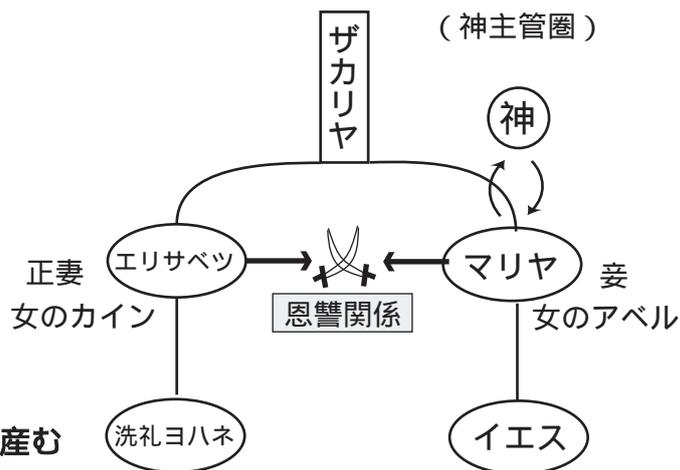
**講論** : **イエス** と **洗礼ヨハネ** の関係から説明

男性の摂理の背後に二人の女性の関係があった

**マリヤ** と **エリサベツ** の関係

イエスとヨハネの関係を決定付ける

(1) イエスの懐胎



マリヤにガブリエルからの啓示

ルカ 1:31 「身ごもって男の子を産む  
 でしょう。イエスと名付けなさい」

マリヤ〔15～16歳〕には理解しがたい内容

母親にも分からない

宗教的意味で信頼できる人物に相談・・・ザカリヤ

祭司ザカリヤ：マリヤの従姉妹エリサベツの夫

エリサベツ：奇跡的にヨハネを身ごもる

マリヤにとっては母親のような存在・・・摂理的には姉と妹

聖霊に満たされマリヤを迎える

ルカ 1:42 「主の母上がきてくださるとは・・・」

ザカリヤもそれを信じ、三人で真剣に相談

マリヤはそこにとどまった

具体的な男女の関係が必要・・・ザカリヤとの関係

ばれれば石打ちの刑

生死、恥、倫理、道徳を越えて、神様を喜ばせたい

メシアを生み出す

マリヤの心情はタマルと全く同じ

エリサベツがマリヤの手を取ってザカリヤのところに導く



レアの失敗の蕩滅復帰

幼いマリヤが自分から行くことはありえない  
エリサベツが反対すれば、メシアは生まれなかった  
エリサベツは良くやった

若い女性が一回で身ごもるのはむずかしい



マリヤは足しげくザカリヤの部屋に通う

それを見つめるエリサベツの心情は複雑



聖霊の感動がさめ、一人の女エリサベツに返る・・・嫉妬心  
マリヤに辛くあたるようになる  
母と娘のような関係が恩讐関係にかわる

**エリサベツ**：マリヤは自分の夫を奪った・・・愛の恩讐

**マリヤ**：自分の欲望でその様なことをしたのではない・・・御旨の恩讐

マリヤは3ヶ月してそこを去る



それ以来二人の女が出会ったという記録はない  
二人の女の一体化は失敗

マリヤを待っていたのは、許嫁のヨセフ



マリヤの妊娠を知る・・・耐え切れずマリヤに問いただす  
マリヤは泣きながら「聖霊によって身ごもりました」  
正直に話せばそのまま石打ちの刑 腹中のイエスも殺される

イエスの十字架があっても、これほど再臨摂理は難しい

もしも生まれる前に殺されていたら一体摂理はどうなったであろうか

復帰されたエバの使命：必要ならば父と夫を偽ってでも行かなければならない

ヨセフは離婚を考える

ガブリエルの啓示：「マリヤを妻として迎えるがよい・・・」

ヨセフの両親もマリヤの妊娠を知る 「マリヤはどうしたのか」

ヨセフが「自分は知らない」といったら やはりマリヤは殺される

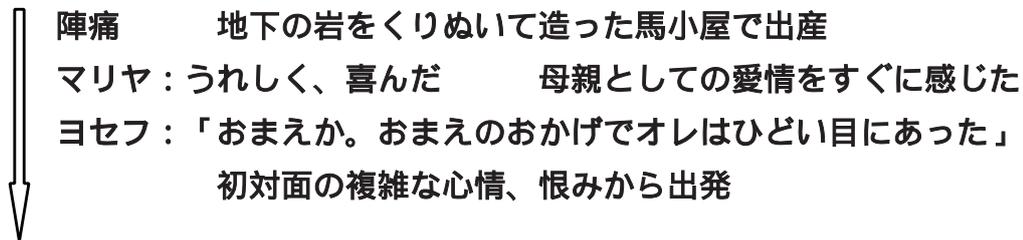
ヨセフは「私がやりました」といった・・・マリヤを守ってやった

アダムがエバを守れなかったことの蕩滅復帰

## (2) イエスの誕生

イスラエルの人口調査

ナザレからベツレヘムへ歩いていった



**神の証**：東方の三博士、羊飼、シメオン、アンナ



イエスの悲しい幼少時代

マリヤはヨセフを気づかい、愛情を十分表現出来なかった  
 弟、妹達との差別待遇・・・新しい靴も衣服も買ってもらえなかった

## (3) イエスの使命

内的：真の父母となって人類を重生させる

イエスがもっとも必要としたもの **新婦**である

撰理的背景を備えた女性でなければならない・・・**洗礼ヨハネの妹**

アダム家庭の蕩滅復帰



**母マリヤ**に相談：

**17歳で**・・・「ヨハネの妹と結婚しなければならない」と詳細に説明

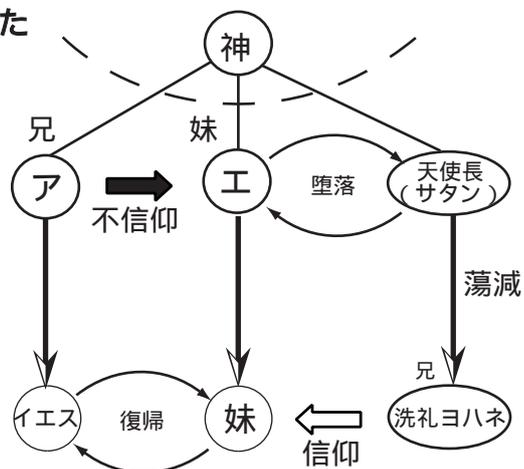
マリヤは顔を石のようにして聞いていて、駄目だといった  
 近親結婚・・・倫理道德に反する、法的にも許されない  
 問題の息子が、またトラブルを持ってきたという思い

**27歳で**・・・イエスは深刻に話した

マリヤは頑として反対

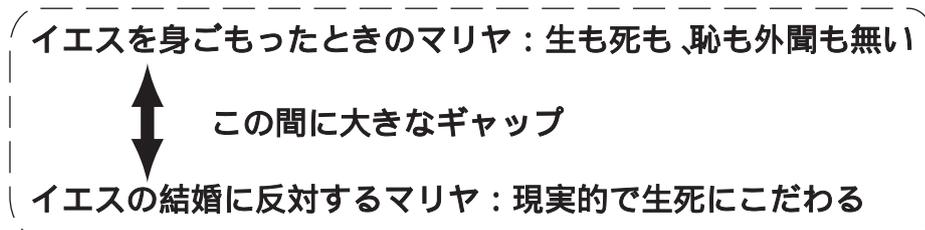
**30歳で**・・・痛哭しながら訴えた

それでもマリヤは変わらず



## イエスは家を出る

ヨハネ 2:4 「婦人よ、あなたは私と何のかかわりがありますか」



### 何故そうってしまったのか

マリヤとヨセフの **聖別生活**：

たとえ約婚はしても性関係は結んではならなかった  
マリヤの中には一人で子供を育てたい思いもあった  
・・・幼い女性一人で生きてゆくのは難しい  
自分が責任を持つからというヨセフの申し出を断れなかった

**性関係**

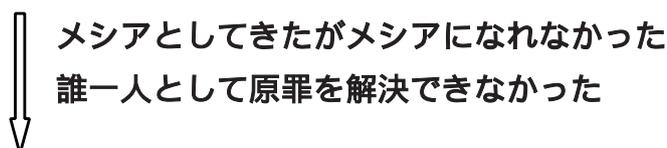
サタンの讒訴する条件

霊的な無知

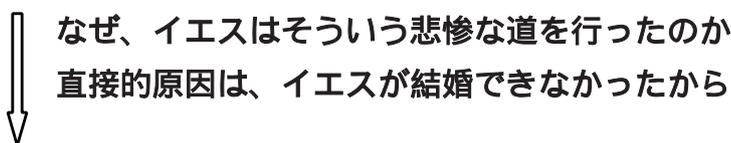
頭ではイエスがメシアであると知りながら実感が無い

御旨を阻むものとなる

イエスの血統が続いていればそれが理想世界である



十字架に血を流しながら無念の涙を流しながら倒れていった



愛する母親が最大の障害になった

そのことを霊界に行って初めてマリヤは知った

自分が愛する息子の十字架の最大の原因となった

悔やんでも悔やみきれない・・・マリヤ像から血の涙が流れる

#### (4) ヨハネの使命

エリサベツ：一人娘を恩讐の息子には渡せない

「マリヤから生まれる子が女の子であれば良いと思った」

ザカリヤ：近親関係がばれ 裁判になったら・・・結婚に反対

三人が一つになり、ひそかに結婚式を挙げたらよかった

ヨハネの妹はイエスを自分の命よりも大切に思っていた  
必要であれば、しばらく、国を出ていても良い

しかし、この三人が皆反対した

イエスの最後の頼み・・・ 洗礼ヨハネ

天地長の使命：アダム・エバを祝福まで守り育てる  
ヨハネは自分の妹をイエスの新婦として供えるべき

ヨハネの模範的信仰 7000名の人への影響力

ヨルダン川での天の証・・・「私の愛する子。私の心にかなう者である」  
ヨハネはイエスと行動を共にしなければならなかった

距離をおいた 不信の思い

父親が若い女と関係して生まれた不倫の子がメシアになりうるか  
・・・聖書にはダビデの血統からとある  
あの天からの声は、サタンのものではなかったのか  
どうして自分の可愛い一人の妹をイエスに渡せようか

ヨハネの投獄

不信

死

## (5) イエスの苦難の道

### 40日の断食とサタンの三大試練

**孤独の道**・・・母あれど母なく、兄弟あれど兄弟なし



マルコ 3/33「私の母、私の兄弟とは誰のことか」

**ガリラヤ伝道**：漁師、取税人、売春婦の友



祭司長、律法学者の激しい迫害

イスカリオテのユダの裏切り・・・ヨセフに代わるべき立場  
ゲッセマネの祈り 三弟子の不信

逮捕と裁判：総督ピラト「この人に罪は無い」

群衆「バラバを許し、イエスを十字架につけよ」

「その血の責任は我々と我々の子孫の上にかかっても良い」

**十字架のイエス**：



「父よ彼らをお許してください。自分が何をしているか分からないのです」

この祈りが無ければ、ユダヤ人は一人も残らず

「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになったのですか」

そのまま息絶えていたら復活も無くキリスト教も無い

「父よ私の霊を御手にゆだねます」・・・全てを御自身の至らなさを受け入れた

復活と霊的救い

**イエスの悲しみ**：真の父、万王の王として生まれながら、一人も救えなかった

「イエスは実に悲しい男だ。その悲しみを三日三晩話しても、語り尽くすことは出来ない」

二人の女が一つになれなかったことがこの悲劇を生んだ

**イエス解放の道** —☞ 氏族的メシアの勝利

濟州國際研修院 教育事務局  
JEJU INTERNATIONAL TRAINING CENTER